

## INDEX

- ① 巻頭言
- ② 滝寺お花まつり
- ③ 法人たすきリレー  
極楽坊あすかこども園
- ④ 児童施設より
- ⑤ 高齢者施設より
- ⑥ 新規採用職員研修会
- ⑦ 新人さんのひとこと
- ⑧ 新任あいさつ・内定者研修
- ⑨ 人事紹介
- ⑩ 各種報告

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257奈良県生駒市元町2-14-8桃李館内 TEL:0743-74-1172/FAX:0743-74-1911

### 巻頭言

## 「働きやすい職場」

理事長 辻村 泰範

誰かに言われるまでもなく、みんなが働きやすい職場づくりは仕事を進める上で最も基本的な課題だ。

世の中には一人で仕事しているのだと言って憚らない、否誰が見てもそう見える仕事師のいるにはいる。昔、元興寺文化財研究所の研究員に京都の某有名な職人さんのお家に連れて行ってもらったことがある。下町長屋のくぐり戸を入ると、「びっくりしたらあかんで」とは聞いていたが、やつぱり相当驚いた。小さな作業台を前に、座った位置から手を伸ばせば何もかもが手に届きそうな小さな部屋で机の周りは紙屑や木端で埋もれて当の主人公は仕事をしていた。客が来てもお茶を出すどころか座る場所もないような部屋だった。その老いた職人にとってそこはこの上もなく快適な職場だったに違いない。

ところで我々が携わっている福祉の仕事は、一人で完結している様な職場は一つもない。みんなが働きやすい、そこが肝なのだ。採用時の研修でもその後の研修でもチームワークの大切さを口を酸っぱくして説いている。

働き方改革だと言われ、労働時間の短縮だ、有給休暇や出産、育児介護などの休暇がとりやすいように就業規則を見直したりと、経営者や管理職はなんとか積極的に工夫を講じてきた。こうした取り組みも少しは評価されたのだろうが、労働局から女性活躍推進法に基づく基準適合事業所として「えるぼし」認定をまた次世代育成支援基準適合事業所として「くるみん」の認定を受けることができています。こうしたある種の外型的職場環境は一定の対策を講じることではできず、評価の基準や尺度も客観的だ。

働きやすさを考えるとき、一人で仕事をしているわけではない、という点で相手に対する気遣いが大きく作用するのだろう。相手とは他のメンバーのことだ。他者の気持ちになって考えてみるのがいかに大事か、誰でも子供の頃から教わったとはいえないものなかなか身につかないもの一つだ。自分が感じる働きやすさは、決して客観的だとはいえない。

新しく国が創設した介護職員の働きやすい職場環境づくり表彰対象事業所として県を代表して推薦された。夏に結果が公表されると聞くが、職員の誰もが働きやすいと感じる職場、事業所にするには「お互い様」だと許しあい、認め合うと同時に切磋琢磨する「職場風土」を作ってゆかねばならない。まだまだやるべきことがある。

# 「滝寺お花まつり」



実行委員長 梅寿荘在宅介護支援センター 西山 直子  
梅寿荘地域包括支援センター 長谷川 香織



令和5年4月23日(日)に滝寺お花まつりが開催されました。  
日本各地はどこも快晴で、清々しい陽気のもと執り行うことができました。  
お花まつりは灌仏会(かんぶつえ)とも言われ、仏教の開祖・お釈迦様の誕生を祝う行事です。  
お釈迦様は紀元前5世紀頃の4月8日に、現在のネパールのルンビニの花園で誕生したといわれており、寺院ではたくさんのお花で飾った花御堂(はなみどう)を作って祝うことから、花祭りと呼ばれるようになったそうです。  
宝山寺福祉事業団の職員にとっては、法人発祥の地となる大乘滝寺で行う春の一大行事として定着しており、全施設が一丸となって盛大にお祝いをさせていただいています。



当日は滝寺の花御堂もたくさんのお花で飾られ、花御堂に安置された誕生仏に沢山の方々が甘茶をかけてお祝いしてくださいました。

と童笑(わらわら)さんのかわいいダンスに続いて行列をつくり、本堂に入る姿はとても愛らしく微笑ましい光景でした。



本堂に入ってから、住職からお加持を受けるお稚児さんたちは緊張のなかで、保護者の方と静かに座って住職のお話を聞いておられました。



終わってからには白象と一緒に写真を撮られたり、無病息災の効果があると いわれる甘茶を一服、緊張の緩んだ和やかな様子で一連の行事は終了となりました。



今年度は、お花まつりに合わせて、法人合同での防災訓練も実施いたしました。  
昨今の災害時対応は勿論のこと、長く続いた新型コロナウイルス感染症での対策に迫られて法人内の職員間交流もままならなかったのですが、この機会に職員同士の親睦を深め、チーム力向上も期待しての企画でした。

準備から片付けも合わせて、皆で協力し合った結果、滞りなく予定通りに進行することが出来ました。

実行委員長を担わせていただいたことで、広い視野で物事を見ること、計画書の作成から流れを把握したうえで適材適所に留意した役割分担を行うこと、法人理念は一緒でも普段交流の少ない他部門職員と協力し合う大切さ、自信のない役割であっても相互サポートで乗り越えることが出来るということが分かりました。

終わりに、ご来場いただいたお稚児さんや保護者の皆様、地域の皆様、日頃から当法人の活動にご協力いただいている皆様、法人職員や実行委員の皆様方すべてのご支援の下、無事に滝寺お花まつりを終えることが出来ました。感謝申し上げます。

来年度もご支援いただけましたよう、よろしく願いいたします。





豚汁とアルファ米の炊き出し訓練



## 法人防災訓練を終えて



奈良DWAT員  
デイセンター延寿 菅尾 良博

花まつりにおいて、25名の法人防災委員による防災訓練を行いました。法人防災委員の活動として初の試みとなる花まつりとの同時開催で、豚汁とアルファ米の炊き出し訓練を行いました。

防災委員は、道具運搬・火起こし班と仕込み班の2つのグループに分かれて準備を進めました。薪で火を起こすのはすぐに成功しましたが、当日は天気良かったにもかかわらず風が強く、大量の水を必要とする鍋を沸かすことがなかなかできませんでした。しかし、ブロックで風を遮ることで火力を高め、ようやく炊き上げることができました。豚汁もアルファ米もおいしく仕上がりました。

災害時には、風だけでなく雨などの現場の環境や道具の有無にも影響されることがあると思います。今回の訓練を、次の防災委員の活動に繋げていけたらと思います。



防災訓練リアカーで鍋を運搬



簡易トイレと室内用避難テントの展示

# 極楽坊あすかこども園

当園では、外部講師の先生やボランティアの方々にお越しいただき、子どもたちと関わったり、お手伝いをしたりしていただいています。それぞれにご縁があり、様々な場面で活躍してくださっています。今回は、そんな皆さんをご紹介します。

## ◆ヨガ指導 谷村 多香先生

いこま保育園(現いこまこども園)の愛護会会長をされていたご縁でヨガ指導が始まり、その後当園でヨガ指導を続けていただいています。週1回、4,5歳児が行うヨガの時間は、当園の魅力の一つでもあります。

## ◆体育指導 眞田 隆雄先生

週に1回、3~5歳児体育あそびを外部から講師を招いて行っています。保育の中で友だちと関わり合いながら身体を動かす遊びをたくさん取り入れています。

## ◆おはなしの会 若林 稲子さん

飛鳥地区のおはなしの会の皆さんは、旧飛鳥幼稚園で永年幼稚園児たちに絵本の読み聞かせをしてこられました。極楽坊あすかこども園との統合後は、当園で継続していただいています。

## ◆ボランティア 石田 三代子さん

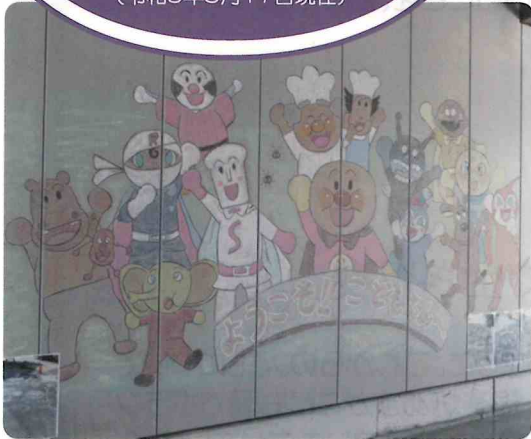
お孫さんが当園で保育補助のアルバイトをしたことがきっかけで、ボランティアとして来てくださっています。裁縫や手芸など、主に保育で使う材料の準備のお手伝いをいただいています。

## 新園舎 建設状況

(令和5年5月17日現在)



園舎の鉄骨が組み上がり、床面のコンクリート打設、壁面の作業が進んでいます。躯体部分については、仕上がりつつあり、今後は内装工事へと進んでいきます。現在のところ、ほぼスケジュール通り順調に建設が進んでおります。5月16日には、園児達に見学会を開いていただきました。建設中の工事現場に入り、建物ができあがっていく様子を見て、新しい園舎へのイメージを膨らませていました。



日頃子どもたちと関わったり、お手伝いをさせていただいている講師の先生やボランティアの皆さんをご紹介します。

## 体育あそび

◆体育指導 眞田隆雄先生



極楽坊あすかこども園では、黄組と赤組は隔週ずつ、青組は毎週1回、各クラス30分ずつ『たいいくあそび』の時間があります。「様々な動きを経験し、身のこなしを高め、技能を獲得していくこと」と、「友達との触れ合いや関わり合いを通して、様々な心の動きを経験すること」という、大きな2つのテーマを掲げ、子どもたちの身体的な成長と、内面的な精神面の成長を促していきたいと考えています。

子どもたちや先生たちに人気の遊びの一つに『サーキット遊び』があります。サーキット遊びでは子どもたちが持つ「体を動かしたい!」という欲求を満たすために運動量を確保します。また、幼児期に最も身につけやすい「調整力」を養うための、跳ぶ、くぐる、わたる、はう、支えるなど、様々な動きを経験します。何度もコースを周回し、くりかえすことで、だんだんと「身のこなしの良い動き」が自然と身についていきます。

幼児の特性を踏まえ、幼児期の体と心にとって、必要なプログラムを研鑽し、検証しながら、実践しています。多くの子どもたちは、前向きに、そして意欲的に、取り組むことができていると思います。

ひとりひとりの子どもに対して、どれだけその子に合わせた「励まし(導き)」と「サポート(援助)」ができたか、そしてその子が「どんなふう成長したのか」を見極めることが、大切なポイントであると認識しています。しっかりと“ひとりひとりの成長”を感じながら、「その子の出来たこと・がんばったこと」を伝え、全員が「自信」と「期待」を抱いて、心も体も生涯健康であり続けるための、良いきっかけとなっていることを、心から願っています。



体育の様子

## ボランティア

◆ボランティア 石田三代子さん 「ボランティアと趣味で生き甲斐」



私は令和三年八十歳で退職しました。これからの人生について考えましたところ大学の孫から、極楽坊あすかこども園でボランティア募集の話がありました。高齢のため戸惑いもありましたが、面接に早速伺いお世話になっております。

子どもたちの元気な声を聞きながらたのしくがんばっております。

趣味では人生はじめてのピアノレッスンに通い発表会に参加しました。同じ先生に孫がフルートを習っているののでいつか共演できることを願っております。

健康面では公園で毎朝ラジオ体操、ウォーキング、月三回の卓球にも挑戦し、これからも人との交流を深めながら、充実した老後を過ごしております。”老化止め ピアノにめざめ 夢舞台”

## ヨガ指導

◆ヨガ指導 谷村多香先生



ヨガの様子

始まりはいこま保育園で、愛護会の会長を6年間させていただいて、2人の子供がお世話になりました。その時に園長にヨガを園児に教えてもらえないかとお声がけをいただいて教えるようになりました。

国際ヨガ協会という組織の総師範として頑張っています。40歳位に極楽坊保育園にお声がけをいただいて、ただいま72歳になりました。長い間お世話になっております。

まず、私の小さいときの夢は保育士になることでした。見た目と違って子供が大好きです。現在のお子さんと、子供の時代とでは、随分身体の硬さや、弱いところが変わってきました。それでも飽きずに子供の方もつきあってくれています。2、3年前から気づいているのですが、足首が硬いお子さんが多いです。それは生活のせいかもしれません。椅子、洋式トイレ、ベッド、足首を使わない生活が多いせいかな、と感じています。それで、ヨガをいつも始めるのに足首をしっかり回すように子供に教えています。一年間経つと、なかなか柔らかくなっているいろいろなポーズができるようになっていきます。今まで泣いてしない子は誰もいませんでした。わりと楽しんでやっているように私には見えます。腹式呼吸もみんな上手になっています。

これからも続く限り子供達をヨガで楽しませてあげたいと思います。これからもよろしく願いいたします。

追伸 実は私、いこま保育園の第一期生です♥

## おはなしの会

◆おはなしの会 若林稲子さん



おはなしの会の様子

飛鳥幼稚園から始まった活動を、20年を超えて続けてきました。わが子たちにお話の世界を楽しませたいと始めたことでした。その子たちはとつくの昔に卒園し、飛鳥幼稚園も歴史を閉じることになりましたが、その後も子どもたちや先生たちに喜んでもらったのか、極楽坊あすかこども園で引き継いで活動を続けられることになりました。今春で3年目になります。

月に一度、4歳児、5歳児のお部屋で、絵本やお話(素話)、手遊びなどを一緒に楽しんでいます。待っていてくれた様子が見られ、嬉しく思います。

本を選ぶときは、絵本やお話は昔話をたくさん届けられたらと思っています。日本のもの、外国のものどちらにも、伝えられてきたその年齢に合った知恵が含まれています。冒険やこわい体験の後には安心できる結末があるものをお話しを聞いて体験した後に乗り越えられた自信を感じてもらえるものと思っています。また今を生きて成長している子どもたちに、気づきや喜び、好奇心につながるような科学絵本も大切にしています。動物、草花、野菜、食べること、遊ぶこと、ともだち、家族、身近なものから世界につながっていることを感じ取ってくれたらと思います。

ハチャメチャなナンセンスを理屈なしで楽しめるのもこの年齢ならではと思います。こちらもタガをはずして、おなじ土俵に立てるセンスをなくさないようにしたいと思います。

# 児童施設より

8p

いこまこども園

10p

極楽坊あすかこども園

いこま乳児保育園

12p

こども支援センターあすなろ

児童発達支援センター仔鹿園

9p

いこま乳児院

愛染寮

11p

奈良県発達障害者支援センターでいあー

児童発達支援いっば

13p

あすかの保育園

平城児童センター

## わくわくいきいきとした一年に

3月に63名の五歳児を送り出し、4月には新たに48名の新入園児を迎えて、今年度は233名でスタートしました。例年同様、乳児クラスは新入園の元気な泣き声が聞こえます。前に後ろに抱っこしたりおんぶしたりする職員の姿が毎日のように見られます。この様子も、ひと月過ぎる頃には徐々に落ち着いて、好きな遊びを見つけて笑顔で過ごせるようになります。

コロナ禍は園全体で集まる事は控えて、2部制や分散型で取り組んでいましたが、4月からは皆で参加する行事を再開しました。

久しぶりに誕生会と新入園児歓迎会でホール



誕生会

## いこまこども園

園長 米田 恵美子

に全員が集まりました。零歳児から就学前の子どもたちが一堂に会し、こどもたちの笑顔や声がホールいっぱいに広がりました。やっとです。やっと園歌に歌われている「明るい笑顔があふれているよ だいすき友だちたくさんいるよ」のように元の園に戻りました。これまで我慢していたことが次々と出来るようになります。年間保育計画には子どもたちが喜び、成長する姿が見られる内容が年齢ごとに組み込まれました。

さあ、この一年が子どもたちにも職員にも、健康で安心安全な年となり、わくわくいきいきと展開されていくことを楽しみにしています。



入園歓迎会



## マスクとバイバイしましょう!

いこま乳児院は、何らかの理由で家庭で養育することが出来ない0歳から概ね3歳の子どもたちをお預かり養育している施設です。暫定定員19名。この4月は、一時保護児を含めて15名のスタートでした。職員は保育士、看護師等の専門職29名が交代で24時間携わっています。3クラスに分かれています。子どもたち「一人ひとりを大切に」をモットーに出来るだけ家庭的な雰囲気を保つよう努力しています。

とはいえ、こしばらく家庭とは違って感染予防の為、職員は片時もマスクを欠かさず、食事は子どもたちだけでというようないびつな生活が



## いこま乳児院

院長 辻村 万里子

続いていました。看護師4人を中心にコロナ対策のマニュアルを作成しては見直し…子どもたちを守るために涙ぐましい努力を続けていました。

でも今年度は、コロナ感染症が2類から5類の扱いになったのを機に、まずは長年馴染んだマスクと勇気を持って、バイバイですね。コロナ感染症が無くなったわけではありませんが、感染症に心しながらもマスク無しの大人たちの満面の笑みを子どもたちに届けたいです。きっと子どもたちにとっては何よりの心の栄養になることだと信じています。



## 3年ぶりの全員集合!~ お祝い会から始まる令和5年度への想い

### 愛染寮

寮長 末松 保喜

毎年4月に、「新入生を祝う会」をバーベキュー大会という形で長らく恒例としてきましたが、新型コロナウイルス流行からは新入生の紹介のセレモニーのみ屋外で合同で行い、食事はホーム別で場所を変えていただくという形をとってきました。うちはずべからく完全ホーム別行動を徹底することによってコロナの蔓延を防いできましたが、大切なこの祝う会さえもそうせざるを得なかったことは本当にはがゆい限りでした。この4月はまだコロナ5類移行前ではあったものの、全員一斉の形に思い切って戻したのです。

4月最初の大変な行事を皮切りに、「これからはGWも夏の行事も、バラバラじゃなくまたみんなと一緒に楽しみ、前以上に盛り上がっていきましょう!」—そんなメッセージを込めて職員にも子どもたちにもこれからに期待を持ってほしかったのです。

この度は屋外でおおいに盛り上がるはずがさすが日頃の行き?天気予報を超越したいきなりの雨天に、結局こもれび(食堂)へ避難、それでも梅寿荘の皆様も交え楽しいひと時が流れて行きました—どうかこの幸せが、この先続きますように。もうこの3年間のようなことはこりこり…皆の笑顔を守りたいですね。



梅寿荘のご利用者さん、ご挨拶ありがとうございます。

## 保育のアップデート

今年度はいよいよ新園舎への引っ越しを控え、新しい保育へと脱皮しようとしています。といっても、場所、環境の変化にとどまることなく、保育の方法や働き方といった保育に関わる「文化」もアップデートしたいと考えています。大きな変化は時に歪みを生むことがあります。「まあ、ちょっとやってみよ」と一歩を踏み出してみれば、意外にうまくいくことがあります。今年度は10月に引っ越しが予定されており、そのため、運動会は6月に実施することに変更しました。6月と10月では、子どもの成長の様子も全くといっていいほど異なるため、内容も取り組み方もそれに合わせて柔軟に変える必要があります。そこで、運動会は「しっかり練習した成果を保護者に見せる場」ではなく、「保護者と一緒に運動を楽しむ場」という意味合いを強く持つことを職員間で確認しました。その上で、親子のふれあいに重点を置いたプログラムを取り入れ、練習を重ねて臨まなくとも楽しむことができるように計画しています。これにより、単なる時期の変化への対応にとどまらない

## 極楽坊あすかこども園

園長 辻村 泰聡

「脱皮」ができるのではと考えています。また、近年の酷暑のことを考えれば、夏が来る前に実施するのも一つの手かもしれないと、今回を試金石にするつもりで取り組んでいます。

この他、行事に限らず日々の保育に関しても「引っ越しなので」やり方が変わるということになりますが、「引っ越しを機に」前向きな変化を巻き起こしたいと思います。



## 整える

コロナが世界に広まってピークを迎えていた頃にいこま乳児保育園の園長になり、そこから早いもので2年が経ちました。やっとコロナも収まりかけ、保育園での生活も通常に戻ってきました。しかし、子どもたちも保護者の方々もコロナ前の生活を知らず、通常の行事などに戻すといってもあまりピンときておられず、保育士もどこまでをどのように戻していくのか戸惑いの中にあるようです。しかしこれまでの行事や業務を見直すきっかけとなったことは、決して悪いことばかりではなかったと思います。世の中の状況や考え方に合わせながらも、大事にするものをしっかりと見極めながら前に前に進んでいきたいと思っています。

## いこま乳児保育園

園長 喜多 由希子

今年度始まってすぐに園庭遊具の点検を業者に依頼しました。その結果、設置から十年近く経過しているものがあり、特に木製の柱は使用不可になる前に綺麗にしておくことを勧められました。園庭で遊ぶことを大事に思っているからこそ、子ども達が安心安全でかつ自主的に遊べるように園庭遊具を整えて行こうと思います。それに加えて四月から新しい仲間をたくさん迎え入れました。いこま乳児保育園の大切にしてきた「温かさのある保育」を新しい仲間へ伝え、そして継続していくことに尽力し、人的環境も整えて行きたいと思っています。

## 初めての育児から得た、仕事への学び

### 奈良県発達障害者支援センターでいあー

相談員 平田 小百合

私は、不妊治療をフルコースで利用すること2年ののち第一子を授かり、1年2か月の育休を経て、昨年時短勤務職員として元の職場に復帰させて頂きました。

不妊治療中は、人生の中で一番努力が結果に結びつかない行き詰りとそれに伴う鬱積した感情が続き、とても苦しかったのを覚えています。そのような状況から得た、望んだ子どもではありませんでしたが、実際の育児は想像以上の大変さでした。

仕事上、保護者の方からのご相談もたくさん伺ってきましたが、相談の中で扱ってきた子どもの特性の捉え方や関わりの前に、面談室では語られていない保護者の方にとっては当たり前になっている、子どもの衣食住をサポートする育児が、どれほど大変なことか気付き、大きなショックを受けました。それと同時に、育児をやりくりして時間を作り面談にお越し頂いていることや、育児の結果として相談で話題になっているお子さんがどんな形であれ今日まで生きていること自体が、驚くほどの努力の上に成り立っているということ

を体感しました。もちろん、保護者の方の来所を労うことは今までからありましたが、そこに込めた共感がとても薄っぺらく思える程、実際に自力では生きていけない命を生かすことの重圧や不安は大きく、対応してきた保護者の方への至らない気持ちで一杯になりました。

このような、想像と実際の体験で大きく異なる感覚を得たことからの学びは、改めて相談者の語られていないことにまで思いを馳せる、ということでした。だからこそ、面談の中でできる限りの心を砕いていたとしても、それは当事者の方からすると僅かなことであることを改めて肝に銘じ、少しでも埋めるため相談員としての技術向上や人として知見を広げることを続けていきたいと思う次第です。

最後になりましたが、不妊治療から職場復帰後も理解・協力下さっている職場のセンター長や職員の方々には本当に感謝しております。いつもありがとうございます。

## 大きな変化・意外な変化

新年度がスタートした4月、子ども全員の名前や顔ぶれを改めて確認しました。長い子で4年目の子もいますが、殆どが3年から短くて半年、数か月。コロナウイルスが蔓延して以降、当然、子ども達が見慣れている「〇〇先生」の顔は、マスクをした目と眉毛と髪の毛だけの顔でした。5月の連休が過ぎ、コロナが2類から5類に移行したタイミングで、いっぽでは原則、職員もマスクを外しました。施設内で何度も協議を重ね、保護者にも同意を求めた上での結果でした。マスクを外した事で、感じた1つに、絵本の読み聞かせで子どもたちが集中して見てくれる事。「大きいね～びっくりしたね～怖いね～面白いね～！」その言葉を顔で表現する事で子どもたちが生き生きとお話の世界に引き込まれていきます。また、指示が良く通るようになった事。これも声のトーン、表情で変わってきます。例外は、マスクを取った

## 児童発達支援いっぽ

児童発達支援管理責任者 長野 智子

保育士の顔を見て泣き出したSくん。「これは僕の知ってる先生じゃない!ギャ〜!!」と言ってはいないけど、、、「ちょっとSくん、それはあんまりよ〜」と落ちこむ保育士。いっぽの、大きな変化、意外な変化でした。



いちごの御絵描き、上手〜!!

## 「ペアレントトレーニング」でご家族の皆さんを しっかりサポートしていきます!!

### こども支援センターあすなろ

センター長 廣岡 幸夫

いまテレビやネット、新聞や雑誌などで、「発達障害」という言葉を見聞きしない日はありません。それほど「発達障害」の認知は社会的に広がっています。

「発達障害」とは脳機能の障害です。他者とのコミュニケーションが困難で特定のコトやモノにこだわりが強い自閉症スペクトラム障害(ASD)、集中できなくじっとしてられない注意欠陥・多動性障害(AD/HD)、読む・書く・計算するなどの能力が知的発達に比べて極端に苦手な学習障害(LD)などのことをいい、通常低年齢で発現します。そして児童発達支援センターや事業所での早期療育が有効とされています。

「発達障害」の社会的認知の広がりを背景に、ここ10年ほどの間、児童発達支援センターや事業所の利用度は医療や介護と比べて大きく伸びており、現在、全国に10,000か所以上開設されています。こども支援センターあすなろも児童発達支援センターとして、生駒市内で約20年間早期療育を実施してきました。

早期療育と同様に「発達障害」の子どもにとって大切なのが、保護者の皆さんの子どもへの関わり方です。上記のように、こだわりが強かったりじっとしてられない子どもに対し、お母さんやお父さんはついつい強く叱ってしまいがちです。叱られた子どもの中にはパニックを起こしたり暴れたりする子もいて育児が悪循環になってしまうことがよくあるのです。

このような中、当センターでは10年近く家族支援のひとつとして保護者の皆さん(主に母親)を対象にペアレントトレーニングを展開してきました。ペアレントトレーニングとは、いわば「子育ての練習」です。

子どもの行動を、「好ましい行動」「好ましくない行動」「許せない行動」に分け、具体的に保護者の皆さんに子どもへの関わり方をロールプレイ(参加者同士で親役・子ども役に分かれて、ほめたり、叱ったり、距離を取ったり、静止したりする)をしてもらう体験型プログラムです。

参加された方から「子育てが楽になった」「子どもが変わった」という声を頂いています。

今年度、当センターでは保護者対象のプログラムを実施するだけでなく、職員研修の一環として、ほとんどの職員がプログラムを受講する予定です。私たちの支援力をさらに高めて、ご家族の皆さんをしっかりサポートしていきます。



## 安心して通うことができる施設

新型コロナウイルスの感染法上の位置付けが5類へ移行されることが決まり世の中の雰囲気も徐々に開かれた空気となりつつあります。これまでも仔鹿園ではコロナ対応をしながら、できる限り子どもたちの生活を大きく変えずに、こどもたちの

## 児童発達支援センター仔鹿園

園長 田中 一嘉

最善の利益を考え、行事や取り組みを行ってきました。ただ、コロナが理由で出来なかったこともあったので、より楽しく、いろいろな活動ができるように工夫し、利用することも、家族が安心して通うことができる施設であるよう努めていきます。

## こどもをまんやかに・・・

## あすかの保育園

園長 小林 美香

園見学に来られた方に保育目標を説明するときには「子どもをまんやかに置いて、保護者の方と保育者が同じ方向性でお子さんの成長を見まもっています。」と伝えています。園では日々子どもたちの思いに寄り添い、子どもの思いを大切にしながら保育をしています。そして保護者の方に様子を伝え、同じ思いで保育が進められるようにしています。

さてR5年4月に「こどもまんやか社会をめざして」こども家庭庁が設置されました。保育においては子どもたちがいかに主体的に過ごすことができるのかが問われています。日々の保育を振り返ったときに、保育者の思いが先走り保育者主導になっていないか？本当に子どもの思いをくみ取って寄り添っているのか？など課題はたくさんあります。

まずは子どもたちが自分から「やってみたい」「たのしいな」「おもしろいな」「ふしぎだな」と

思えるような環境を整え、五感をしっかり使って遊び込めるような保育ができるように職員間で話し合っていきたいと思います。そして子どもの様子を見ながら、子どもたちの変化にいち早く気づき、「今何を求めているのか、何を考えているのか。」ということをしっかり捉えて、子どもをまんやかに置いた保育をしていきたいと思います。



ダンゴムシいるかな？

## 自然の中で、自分のオリジナル作品を作ろう

## 平城児童センター

センター長 俣俣 おさむ

令和5年度は、「はじめのいっぽ」「どろんこの森」「地域とのふれあい交流」の通年サークル活動を実施しています。

はじめのいっぽは17組38人、どろんこの森は18組40人、地域とのふれあいは24人の参加となっています。サークル活動は二、三年野外活動を中心にして行い、餅つきや野外自炊・会食などを見合わせてきました。四月に三年ぶりに餅つきを行ったところとても盛り上がりましたので今後は参加者の希望を取り入れながら実施していくことにしています。

小学生の活動では「子どもが自ら遊びを考えること」や「活動に積極的に意見を言うこと」を大切にしており、毎年希望する活動のアンケートを実施しています。今回希望が多かったのは「キャンプ」「山登り」「遊園地」「水族館・動物園」「夏祭り」などでした。この二年間は様々な制限がありましたが、できる限り子どもたちの希望や自由な意見を尊重したいと考えています。

これまでサークル活動を中心にしてきましたが今年度「子どもゆめ基金」に「伝統工芸体験作り体験」で応募し補助対象となりました。「自然の中で自分のオリジナル作品を作ろう」で幅広く参加者を公募することにしました。多くの児童が参加してくれること期待しています。



よもぎ餅つき

# 高齢者施設より

14p

■ 梅寿荘

16p

■ デイセンター寿楽

■ 生駒市梅寿荘地域包括支援センター

15p

■ 老人総合福祉施設あくなみ苑

■ 総合施設やすらぎの杜延寿

17p

■ 梅寿荘デイセンター・デイセンター憩の家

■ 梅寿荘居宅介護支援センター

## 感じる心を発揮して

## 梅寿荘

養護老人ホーム 施設長/特別養護老人ホーム 次長 森本 公子

新型コロナが5類相当に移行した5月8日、梅寿荘には大勢のご家族が対面となった面会にお越しいただき施設は久しぶりに活気に満ち、賑わいを取り戻していました。「長い間お待たせしました、どうぞごゆっくりお過ごしください。」の声掛けに、どのご家族も、こぼれんばかりの笑顔を見せて急ぎ足でお部屋に向かわれるのです。3年間という長い時間、触れ合うことができなかった隙間を一気に埋めるように。また私たち職員の3年間もコロナ侵入防止に徹し、ご利用者を守ることと感染予防についての知識を習得し続けました。その一生懸命さは本当に一途であったと思います。しかし反面、一途であるがゆえに、本来持ち合わせている、おもてなしの気持ちや気づきといった「感じる力」である感性を発揮する余裕が無かったように思います。この3年間は良くも悪くも本当に貴重な経験をしました。それ

を大切にそれを糧として前よりももっと楽しく、もっと優しくありたいと思います。梅寿荘に集う全ての人が心安らく場所であるよう、全ての職員が働きやすい職場となるよう「感じる力」を思い切り発揮できる施設でありたいと思います。



一緒に喫茶を楽しみました



## 新年度を迎えて

新しい年度が始まりました。今年度も介護人材不足と世間では言われている中、4人もの職員が入職してくれました。本当にありがたいことです。きっと爽やかな新しい風をあくなみ苑に持ち込んでくれることでしょう。

さて、コロナウイルスが2類相当から5類に変わりましたが、世の中からコロナウイルスが無くなった訳ではなく、重症化する人もおれば、相変わらず感染力も落ちていません。施設としては、もろ手を上げて喜ぶわけにもいかず、やはり今まで通りの対応を取らざるを得ない状況であります。あくなみ苑は約3年間、ご利用者の感染者は出ませんでした。今年度の1月にクラスター状態となりました。職員が一丸となって頑張ってくれたおかげで、一カ月で終息はしましたが、ご利用者のADL(日常生活動作)が大幅に落ちる方が増えています。コロナのクラスター時は職員のモチベーションも高く、「一日でも早く終息させよう」、

## 老人総合福祉施設あくなみ苑

施設長 田中 将史

「これ以上感染者を増やさないようにしましょう」と非常に張り詰めた緊張感の中で頑張ることができました。しかし本当に大変なのは、終息してからADLが極端に低下したご利用者をどのようにして元の状態に戻していくかが大きな課題となっています。一般的に入院され退院されてきたご利用者のADLは下がって帰って来られる方が多いです。そのような方がたった数週間でたくさんおられる現状になっています。このような状況の中でも職員は身体的、精神的にも負担が大きくなっている中で気持ちを切らさず頑張ってくれています。そういった意味でも4名の新採用職員には期待したいところでもあります。

今年度は今以上に職員のメンタルヘルス対策を重点的に努め、非常勤職員も含めeラーニング等でケアの質の向上に努めてまいりたいと思っていますので、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 仕切り直し

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るって丸三年が過ぎた。学校で友達と授業を受ける。仕事帰りに同僚と飲みに行く。休日に遠くに旅行する。そんな当たり前が当たり前でないことを痛感した三年でもあった。そんなコロナ対応も漸く感染症分類の5類相当に見直しされることになり、自粛自粛と呪文のような言葉に押さえつけられていたものが一気に解放された気分である。しかし新型コロナウイルスがなくなったわけでもなく。まして多くの高齢者が生活する施設では、コロナだけではなく、多くの感染症に対し常に注意を向けおく必要がある。人と人とが直接会って触れ合っ

## 総合施設 やすらぎの杜 延寿

施設長 井上 太

なのかを思い起こし、安易に制限をすることの無いように気を引き締めたいと思う。

そして何がどのような状況がハイリスクとなるのかを踏まえ、立て直しを図る一年としたいと思う。感染症対策はもちろん、仕切り直しと言うところだろうか、職員の体制や個々のスキルアップも含めて、我々の強みはどういうところなのか、何が自信をもって提供できるサービスなのか、懇切丁寧を心掛け選択に資するようにその質に磨きをかけ、見える化を図りたいと思う。職員は志を持ち、自身で考え行動できる者に、また互いに切磋琢磨し情熱を絶やさないそんなチームを目指しコツコツと積み上げていきたいと思う。

## ご利用者の生活を豊かに

デイセンター寿楽では、ご利用者の生活を豊かにするために、様々な取り組みを行っています。個別機能訓練では、5人以下の小集団で機能訓練指導員が中心となり、個々のニーズに応じたメニューを実践しています。特に、歩行能力や筋力、バランス力などの機能向上訓練を重視しています。気候の良い日は、日頃のトレーニング効果の評価を兼ねて、近くの公園まで散歩に行くこともあります。これは気分転換にもなり、モチベーションを高めることができます。

また、寿楽はコンビニやスーパーが近くにある



## デイセンター寿楽

センター長 井上 貴至

ことから、外出機能訓練として、ご利用者が自宅での生活を少しでも長く続けられるよう、食料品や衣類・雑貨などの買い物支援を行っています。自分の足でコンビニやスーパーに行き、店内を歩いて自分の目で商品を選ぶという動作は、生活力向上に繋がります。個別のニーズに合わせたアプローチで、健康的な生活習慣をサポートし、社会参加や自己実現を促進することができます。寿楽は、ご利用者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう支援することを目的として、これからも努めてまいります。



支払いもご自身で

## 地域共生社会とは

「地域共生社会」は、今後の国の目標として掲げられています。これは「制度・分野ごとの『縦割り』や『支え手』『受け手』という関係を越えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を越えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指しています。」と厚生労働省のサイトにも掲載されています。地域包括支援センターでは今年度、障害者福祉や児童福祉など他分野との連携や、市町村で構築していく支援体制整備に関して、実働する側の私たちも含め活発に意見交換をしながら支援の在り方を考えていく必要があります。「支える側」「支えられる側」と

## 生駒市梅寿荘地域包括支援センター

センター長 岩井 香奈子

いう関係を超えた取り組みを進め、今後の地域共生社会をどのように構築していくか、要となる年になると思います。

制度では、人の一生に児童や高齢者と区切りを作り、システムを構築していく必要があります。しかしシステムに抜け落ちのないよう注意を払い、細かく決めごとを作れば作るほど、隙間は数多く出来てしまうことでしょう。そこは知恵を絞りながら助け合い、隙間ではなく重なり合う部分をたくさん作ることで、誰一人取り残さない社会の実現を、足元から進めて行く1年になるようにと考えています。



## 基本にたちかえる

## 梅寿荘デイセンター・デイセンター憩の家

センター長 伊藤 智宣

ゴールデンウィーク明けから、新型コロナウイルスが感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザと同じ5類感染症になり、WHOは緊急事態を終了すると宣言しました。

この3年間、感染者数で一喜一憂しながら、サービスを提供してきたように思います。今まで普通にしてきたことが普通でなくなり、イレギュラーな対応を早急にしないといけない時に感じたことが、基本の大切さやチームワークの大切さを改めて感じました。コロナ禍に梅寿荘デイセンター・デイセンター憩の家に赴任してきたことで、特にそう思うのかもしれませんが。

今年度は、私たちの仕事の基本である介護力・介護の質を向上させていきたいと考えています。そのためにe-ラーニングでの研修を取り入れました。e-ラーニングの利点としては、全職員が参加(視聴)することができる点です。また、何度も見直すことが可能な点です。今、介護力がない・介護の質が悪いわけではありません。しかし、介護力・介護の質の向上には、頂上・ゴールはありません。これらを向上させることで、デイセンターの一番の目的であるご利用者の生活を支えることができるとも考えています。そして、事業所の特色も生きてくるのだと思います。

## より良い支援を目指して

## 梅寿荘居宅介護支援センター

センター長 斉藤 洋子

生駒市内には、居宅介護支援センターが梅寿荘と延寿があります。

同じ法人ですが顔を合わせて情報共有する機会はありませんでした。

折角ケアマネジャーの仲間が沢山いるのならもっと連携することで、それぞれの知識や技術の向上が図れるのではないかと4月から月2回合同での会議の機会を持つことにし事例検討会や勉強会を企画しています。一同に集まると12、3人になる日もあり、多数での事例検討会をどうまとめられるのか不安もありましたが、限られた時間の中でスムーズな進行、発言など今までにはない緊張感と多様な視点からの意見を聞くことができ、勉強になっています。

梅寿荘、延寿と事業所は違いますが、共に高めあいご利用者や地域へより良い支援と貢献ができるように努めていこうと思っています。



合同事例検討会



法人研修委員 梅寿荘  
主任生活相談員 黒川 美穂

### <辞令交付式・訓示>

辞令交付式では、一人一人名前を呼ばれると、緊張した面持ちではありますが、決意新たにしっかりとした表情で、理事長より辞令を受け取っていたのが印象的でした。

理事長からの訓示では、時代や地域のニーズをキャッチして福祉事業を行ってきた法人の歴史やその使命についてお話いただきました。

### <コンプライアンス>

講師:梅寿荘デイセンター センター長 伊藤 智宣

「コンプライアンスとは?」という基本的なことから、「コンプライアンスの必要性」「法人職員としてのコンプライアンス遵守」「コンプライアンスやルール違反はなぜなくなるのか」等について具体的な事例を挙げての説明がありました。常に職場や社会のルールを守ることを意識し、法人職員としての自覚と責任を持って行動する義務があることを学びました。

### <接遇マナー>

講師:フェリアン 津村 薫先生(正規)

梅寿荘在宅介護支援センター センター長 斉藤 洋子(契約)  
社会人としての基本的なマナーや接遇、よい社会人になるためにできることなどについて、グループワークを通して学びました。また、福祉職として支援する時に「あなたのことが大切です」という思いが伝わるよう、温かいコミュニケーションを意識することも大事なことであることを教えていただきました。

令和5年度に採用された職員(正規職員24名・契約職員13名)の辞令交付式・研修会を、正規職員は3月28日、29日の2日間、契約職員は3月29日に実施しました。

### <リスクマネージメントの理解>

講師:あすかの保育園 主任保育士 川崎 香織

コロナ禍での支援や実際に起こった保育現場での痛ましい事故の話から、リスクマネージメントがいかに重要かということについて学びました。ヒヤリハットのグループワークを通して、どこに危険が潜んでいるのかに気づき、情報を共有し、対策をすることで重大な事故を未然に防ぐことができることも学びました。

### <理解力・伝達力>

講師:デイセンター延寿 矢野 健太郎

まず初めに、理解力・伝達力は、働くにあたり現場で使えるスキルであることの結論を聞きました。そこから具体的に理解力・伝達力の説明やそれぞれの能力向上によるメリットやチームケアには不可欠な要素であることを学びました。盛り沢山な内容でしたが、講師の伝達力により、受講生の皆さんも理解できた!というスッキリとした表情でした。

「笑顔をとれない」



梅寿荘  
介護職員  
西村優子

令和五年四月から特別養護老人ホーム梅寿荘で介護職員として働くことになりました西村優子と申します。

私は今まで福祉とは違う分野で働いていましたが、母親が高齢になるにつれ将来について考えるようになりました。今の自分のままでは介護についての知識が浅く不安に思い、専門学校に通うことを決めました。在校中に梅寿荘で約一ヶ月間実習させていただく機会があり、その時に先輩方がご利用者の残存機能を活かして寄り添った介助をされているところや、笑顔で冗談を言いながら楽しそうに過ごされている様子を見て、私もこの施設で一緒に働きたいという気持ちが強くなりました。

入社することができているヶ月経ちますが、不慣れで戸惑いごとが多く、介助や準備に時間がかかってしまい、ご利用者やほかの職員の方に迷惑ばかりおかけして申し訳なく思うことが続いています。その様な時、皆様に「最初はみんなななごうやから」と励まされたり、「頑張れ」と声をかけていただいたりして、毎日乗り越えられていることができています。

まだまだ未熟者ですが、どんなときも笑顔をとれず、ご利用者の安全を第一に考え丁寧な介護を行い、少しでも早く一人前の介護職員になれるよう頑張りたいと思っています。よろしくお願ひ致します。

「新採用研修を受けて心に残ったこと」



いこま乳児保育園  
保育士  
竹田月子

辞令交付式で辞令を頂いた時、自分が保育士として宝山寺福祉事業団の一員になったと実感しました。自分の名前が呼ばれた瞬間が一番緊張しました。緊張と同時に頑張ろうという気持ちも強くなりました。中学生のころに職場体験で保育園に行き、保育士になりたいという夢を持ちました。その夢を叶えることができて本当に嬉しく思います。訓示を聞いて心に残ったことは、「小さい子どもを大切に嬉しく思います。

訓示を聞いて心に残ったことは、「小さい子どもを大切に嬉しく思います。自ら実行することが大事である。です。働く中で、完璧に物事が進むときもあれば躓くときもあると思います。どちらの状態になったとしても、もう一度何が足りないのかをしっかりと考え、その解決するとはどうすればいいのかを自分自身や周りの人と相談し考え実行する。ことで良い仕事につながり、利用者や職場内での信頼にもつながると思います。良い仕事が信頼につながり、また信頼が良い仕事につながるという幸せのループを作り出すことができると行動したいと考えています。

研修では、「コンプライアンス」や「接遇・マナー」、「リスクマネジメント」などを学びました。様々な研修の中で、良い仕事をすると「口」をアツクさせる要因とタフネスをさせる要因を考えるワークがあり、それぞれの要因を理解してこそ自分自身がどのよう行動、生活すれば良いのかが見えてきました。自分を理解することの大切さに気付くとともに、頭の中を整理することができました。他にも、各施設紹介のビデオを拝見し、各施設の実際の様子や、歴史や、仕事のやりがい、魅力などを知り、深く学ぶことができていました。これらの話を聞いてくださった全ての職員の方々が自分の仕事に誇りを持ち、楽しく働いていることがインスピレーションをみても強く感じました。本当にありがとうございます。

私が実際に働いて約2か月が経ち、自分がしたい仕事を楽しくしながら取り組んでいます。自分が自信が繋がっています。

## ★新任施設長紹介



児童発達支援センター仔鹿園 園長  
児童発達支援ばんび 園長  
仔鹿園相談支援センター センター長

田中 一嘉

令和5年4月より、児童発達支援センター仔鹿園、児童発達支援ばんびの園長、仔鹿園相談支援センター長に就任しました田中一嘉です。どうぞよろしくお願い致します。

平成18年より仔鹿園へ配属となり保育士としてスタートしました。毎日、こども達とかかわりを深め、その中で楽しみ、悩み、たくさんの経験を子ども達や家族の方と過ごしてまいりました。直接支援することで目の前の方に向かい合い、その場で工夫したり、子どもの思いに気持ちを寄せながら過ごしました。

平成27年より仔鹿園相談支援センターへ異動となり、相談員としての新たなスタートを切りました。これまでの直接支援から相談業務としての間接支援へと変わり、初めは戸惑いもありましたがこれまでの直接支援で培った現場での知識を活かしながらたくさんの方の相談を受けてまいりました。

そして、昨年副園長を経て今年より園長職に就任しました。これまでの法人人生の中でも分岐点で笑い、悩み、考えて過ごしてきたことを振り返り、これまで全国的に障害児療育に取り組まれてきた岡本とも子前園長の後任でもあり、周囲の期待もある中ではありますが、自分らしさを持ちながら自分なりの施設長像を目指してまいります。これまで以上に利用されるこども達や家族の方が安心して利用して頂けるように努力してまいります。

## ★内定者研修

いこま乳児保育園 園長 喜多 由希子

令和5年2月21日、五年度採用の内定者職員対象に総合支援センターあずさの地域交流ホールにて対面での研修を行いました。開会の理事長の挨拶の後、「社会人になるにあたって」という内容で、喜多園長から絵本やイラストを使って「働くとはどういうことなのか」の講義がありました。二つ目の講義では、辻村園長より「社会人のソーシャルメディアの利用について」の講義がありました。携帯を使って受講者の意見が即座に見れるようになっていたのが斬新で新しい方法でした。どの講義も参加した一四名の受講者は緊張した面持ちでしたが、話の合間に頷いたり、メモを取ったりとこれからの職務に真剣に取り組もうとする姿が見られました。最後にそれぞれの配属の施設長と打ち合わせをする時間では、少し緊張もほぐれた様子で勤務に当たっての持ち物や時間などを話していました。

私は今回初めて内定者研修に参加させて頂きました。新採用の職員となる方々にどうわかりやすく話そうか色々考える時間を頂き、勉強になりました。学生生活とは違う新しい生活に責任と期待を持ちながらも、時期を同じくして仲間になった同志でこれから励まし合いながら福祉の仕事に末永く携わっていただくことを願っています。

令和5年度 新採用正規職員

愛染寮

児童指導員 伊藤大芽  
 児童指導員 中西沙英  
 保育士 那須大地  
 事務員 竹井順子

いこま乳児院

保育士 太田伸江  
 保育士 下浦希実

いこま乳児保育園

保育士 竹田月子  
 保育士 内野佳美

極楽坊あすかこども園

保育教諭 渡邊健人  
 保育教諭 豊永紀子

いこまこども園

保育教諭 古橋和花

こども支援センターあすなろ

看護師 吉元あきな

でいあー

相談員・事務員 岸本真奈美

梅寿荘

介護職員 西村優子  
 介護職員 野々宮有杜  
 介護職員 岡本唯哉  
 准看護師 林田浩子

延寿

介護職員 斉藤友美  
 介護職員 東 咲哉  
 管理栄養士 宮部奈央子

あくなみ苑

介護職員 伊藤涼志  
 介護職員 上山小夏  
 介護職員 山下真一  
 介護職員 加藤容平



令和5年度 異動職員

仔鹿園↓極楽坊あすかこども園

保育教諭 奥田香織

デイセンター→寿楽↓デイセンター→延寿

介護職員 浅原美幸

デイセンター→延寿↓デイセンター→寿楽

介護職員 澤田百合子

特養延寿↓特養梅寿荘

介護職員 高橋恭子

特養梅寿荘↓特養延寿

介護職員 北嶋健吾

事務職員 中村優果

令和4年度 退職者

愛染寮

保育士 竹下季実花

いこま乳児院

保育士 山川侑夏

仔鹿園

保育士 和田芙美

園長 岡本とも子  
 保育士 山口千佳

いこま乳児保育園

保育士 田中佳津子

保育士 増田実希子

保育士 渡邊彩

保育士 龍田千夏

こども支援センターあすなろ  
 センター長 西野敦

極楽坊あすかこども園

保育教諭 高田花奈

延寿

介護職員 客野英樹

ヘルパー 西尾里子

介護職員 辻野勝久

介護職員 青野可奈子

いこまこども園

副園長 山中治郎

あくなみ苑

介護職員 喜多智大

介護職員 羽山真唯

介護職員 下岡宏彰

看護師 外園麻記世

介護職員 佐野春香

梅寿荘  
 介護職員 伊藤礼華

介護職員 旅河里帆

理学療法士 菊地翔

法人単位資金収支計算書  
(自)令和 4年 4月 1日(至)令和 5年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	介護保険事業収入	1,750,504,000	1,737,488,907	13,015,093	
	老人福祉事業収入	130,430,000	129,945,732	484,268	
	児童福祉事業収入	440,699,000	444,708,845	△ 4,009,845	
	保育事業収入	825,267,000	834,564,055	△ 9,297,055	
	障害福祉サービス等事業収入	468,253,000	473,637,837	△ 5,384,837	
	ヘルパー養成事業収入	150,000	150,000	0	
	借入金利息補助金収入	7,000	6,393	607	
	経常経費寄附金収入	62,918,000	63,035,090	△ 117,090	
	受取利息配当金収入	1,058,000	1,095,768	△ 37,768	
	その他の収入	33,339,000	33,514,642	△ 175,642	
	事業活動収入計(1)	3,712,625,000	3,718,147,269	△ 5,522,269	
	支出				
	人件費支出	2,653,724,000	2,623,343,408	30,380,592	
事業費支出	590,503,000	562,724,434	27,778,566		
事務費支出	331,657,000	309,915,982	21,741,018		
支払利息支出	48,000	47,685	315		
その他の支出	20,945,000	20,153,567	791,433		
事業活動支出計(2)	3,596,877,000	3,516,185,076	80,691,924		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	115,748,000	201,962,193	△ 86,214,193		
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等補助金収入	223,657,000	225,536,721	△ 1,879,721	
	施設整備等寄附金収入	180,000	180,000	0	
	施設整備等収入計(4)	223,837,000	225,716,721	△ 1,879,721	
	支出				
	設備資金借入金元金償還支出	15,001,000	15,000,000	1,000	
	固定資産取得支出	393,650,000	393,775,440	△ 125,440	
	固定資産除却・廃棄支出	102,000	99,299	2,701	
	ファイナンス・リース債務の返済支出	10,643,000	10,552,392	90,608	
	施設整備等支出計(5)	419,396,000	419,427,131	△ 31,131	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 195,559,000	△ 193,710,410	△ 1,848,590		
その他の活動による収支	収入				
	積立資産取崩収入	243,159,000	231,542,425	11,616,575	
	その他の活動収入計(7)	243,159,000	231,542,425	11,616,575	
	支出				
	積立資産支出	160,170,000	193,115,880	△ 32,945,880	
その他の活動支出計(8)	160,170,000	193,115,880	△ 32,945,880		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	82,989,000	38,426,545	44,562,455		
予備費支出(10)	0	—	0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	3,178,000	46,678,328	△ 43,500,328		
前期末支払資金残高(12)	815,189,000	815,206,000	△ 17,000		
当期末支払資金残高(11)+(12)	818,367,000	861,884,328	△ 43,517,328		

法人単位事業活動計算書  
 (自)令和 4年 4月 1日(至)令和 5年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	介護保険事業収益	1,737,488,907	1,744,557,481	△ 7,068,574
	老人福祉事業収益	113,716,882	116,767,334	△ 3,050,452
	児童福祉事業収益	444,708,845	417,152,422	27,556,423
	保育事業収益	834,564,055	835,744,850	△ 1,180,795
	障害福祉サービス等事業収益	473,637,837	506,295,837	△ 32,658,000
	ヘルパー養成事業収益	150,000	100,000	50,000
	経常経費寄附金収益	63,035,090	12,125,328	50,909,762
	サービス活動収益計(1)	3,667,301,616	3,632,743,252	34,558,364
	費用			
人件費	2,623,596,408	2,606,850,340	16,746,068	
事業費	541,433,159	515,460,611	25,972,548	
事務費	309,915,982	321,404,268	△ 11,488,286	
減価償却費	189,630,948	194,901,713	△ 5,270,765	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 89,508,273	△ 90,085,417	577,144	
徴収不能額		400,000	△ 400,000	
サービス活動費用計(2)	3,575,068,224	3,548,931,515	26,136,709	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	92,233,392	83,811,737	8,421,655	
サービス活動外増減の部	収益			
	借入金利息補助金収益	6,393	19,179	△ 12,786
	受取利息配当金収益	1,095,768	838,583	257,185
	基本財産評価益	760,000		760,000
	投資有価証券評価益	13,192,477		13,192,477
	その他のサービス活動外収益	33,514,642	35,497,978	△ 1,983,336
	サービス活動外収益計(4)	48,569,280	36,355,740	12,213,540
	費用			
	支払利息	47,685	143,055	△ 95,370
	基本財産評価損		715,000	△ 715,000
投資有価証券評価損		11,190,992	△ 11,190,992	
その他のサービス活動外費用	20,153,567	23,765,913	△ 3,612,346	
サービス活動外費用計(5)	20,201,252	35,814,960	△ 15,613,708	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	28,368,028	540,780	27,827,248	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	120,601,420	84,352,517	36,248,903	
特別増減の部	収益			
	施設整備等補助金収益	225,536,721	4,439,885	221,096,836
	施設整備等寄附金収益	180,000		180,000
	固定資産受贈額	124,000	562,134	△ 438,134
	固定資産売却益		150,998	△ 150,998
	特別収益計(8)	225,840,721	5,153,017	220,687,704
	費用			
	基本金組入額	180,000		180,000
	固定資産売却損・処分損	548,637	2,718,244	△ 2,169,607
	国庫補助金等特別積立金積立額	225,536,721	4,439,885	221,096,836
特別費用計(9)	226,265,358	7,158,129	219,107,229	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 424,637	△ 2,005,112	1,580,475	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	120,176,783	82,347,405	37,829,378	
繰越				
前期繰越活動増減差額(12)	1,347,366,777	1,421,609,372	△ 74,242,595	
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,467,543,560	1,503,956,777	△ 36,413,217	
活動増減差額の部				
基本金取崩額(14)				
その他の積立金取崩額(15)	202,480,000	15,000,000	187,480,000	
その他の積立金積立額(16)	169,115,880	171,590,000	△ 2,474,120	
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	1,500,907,680	1,347,366,777	153,540,903	

法人単位貸借対照表  
令和5年3月31日現在

(単位:円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	1,232,465,566	991,256,096	241,209,470	流動負債	489,198,730	309,530,688	179,668,042
現金預金	585,388,778	571,975,390	13,413,388	事業未払金	130,561,045	132,302,711	△ 1,741,666
事業未収金	369,342,895	363,308,144	6,034,751	その他の未払金	199,701,340	0	199,701,340
未収金	57,079	776,695	△ 719,616	1年以内返済予定設備資金借入金	0	15,000,000	△ 15,000,000
未収補助金	266,919,045	42,236,758	224,682,287	1年以内返済予定リース債務	10,185,492	10,301,592	△ 116,100
貯蔵品	107,000	28,000	79,000	預り金	511,800	929,869	△ 418,069
立替金	958,293	1,048,178	△ 89,885	職員預り金	39,807,053	42,817,516	△ 3,010,463
前払金	2,030,445	1,338,407	692,038	賞与引当金	108,432,000	108,179,000	253,000
前払費用	7,562,031	10,094,524	△ 2,532,493				
短期貸付金	100,000	450,000	△ 350,000				
固定資産	5,555,179,901	5,371,320,415	183,859,486	固定負債	133,341,868	144,326,185	△ 10,984,317
基本財産	2,846,705,770	2,980,205,871	△ 133,500,101	リース債務	23,627,368	29,549,260	△ 5,921,892
土地	323,061,540	323,061,540	0	長期預り金	109,714,500	114,776,925	△ 5,062,425
建物	2,519,379,230	2,653,639,331	△ 134,260,101	負債の部合計	622,540,598	453,856,873	168,683,725
投資有価証券	4,265,000	3,505,000	760,000				
その他の固定資産	2,708,474,131	2,391,114,544	317,359,587	純資産の部			
土地	4,433,872	4,433,872	0	基本金	779,065,360	778,885,360	180,000
建物	5,616,968	6,434,435	△ 817,467	国庫補助金等特別積立金	1,882,050,743	1,746,022,295	136,028,448
構築物	31,063,750	36,712,436	△ 5,648,686	その他の積立金	2,003,081,086	2,036,445,206	△ 33,364,120
機械及び装置	1	1	0	人件費積立金	204,730,000	183,230,000	21,500,000
車輛運搬具	6,217,276	9,735,925	△ 3,518,649	施設整備等積立金	1,322,340,000	1,422,500,000	△ 100,160,000
器具及び備品	69,372,265	64,887,276	4,484,989	ひめゆり基金運営積立金	27,568,000	25,268,000	2,300,000
建設仮勘定	356,820,880	2,860,880	353,960,000	社会福祉事業等運営積立金	249,200,000	251,200,000	△ 2,000,000
有形リース資産	34,628,216	38,969,755	△ 4,341,539	公益事業等運営積立金	116,865,000	116,365,000	500,000
ソフトウェア	1,134,485	1,520,294	△ 385,809	福祉基金積立金	82,378,086	37,882,206	44,495,880
無形リース資産	1,803,708	2,942,892	△ 1,139,184	次期繰越活動増減差額 (うち当期活動増減差額)	1,500,907,680	1,347,366,777	153,540,903
投資有価証券	84,287,124	71,094,647	13,192,477		120,176,783	82,347,405	37,829,378
長期預り金積立資産	109,714,500	114,776,925	△ 5,062,425				
人件費積立資産	204,730,000	183,230,000	21,500,000				
施設整備等積立資産	1,322,340,000	1,422,500,000	△ 100,160,000				
ひめゆり基金運営積立資産	27,568,000	25,268,000	2,300,000				
社会福祉事業等運営積立資産	249,200,000	251,200,000	△ 2,000,000				
公益事業等運営積立資産	116,865,000	116,365,000	500,000				
福祉基金積立資産	82,378,086	37,882,206	44,495,880				
差入保証金	300,000	300,000	0				
資産の部合計	6,787,645,467	6,362,576,511	425,068,956	純資産の部合計	6,165,104,869	5,908,719,638	256,385,231
				負債及び純資産の部合計	6,787,645,467	6,362,576,511	425,068,956

役員会  
Committee

- 令和4年度 役員会等報告 (令和5年2月~3月)
- 【第5回理事会】 令和5年3月24日 桃李館研修室
  - 第1号議案 令和4年度第2次資金収支補正予算案の承認を求める件
  - 第2号議案 令和5年度事業計画及び令和5年度当初予算案の承認を求める件
  - 第3号議案 諸規程改正について承認を求める件
  - 第4号議案 役員等賠償責任保険の更新契約を締結する件
  - 第5号議案 理事長並びに業務執行理事の職務執行状況報告の件
  - 第6号議案 施設長の選任について承認を求める件
  - 第7号議案 その他報告事項

【令和3年度苦情等対策委員会】 令和5年3月6日 桃李館研修室  
令和4年度法人全体の苦情等の受付状況について報告。  
その中の3施設から、苦情等の詳細について状況説明し、各委員から意見交換がなされた。

◆編集後記

今年もカラスが施設の近くの木に巣を作りました。雛の巣立ちの時期となり、おかげで、出勤してくる職員は雛を守ろうとする親ガラスの襲撃に合う者が続出！なるべくカラスを見ないように気を使って歩いているのですが・・・  
調べたところ、両手を高くあげて静かに通り過ぎるのが良いそうです。  
皆様もどうぞ、この時期、カラスには気をつけてくださいね。(森本)

